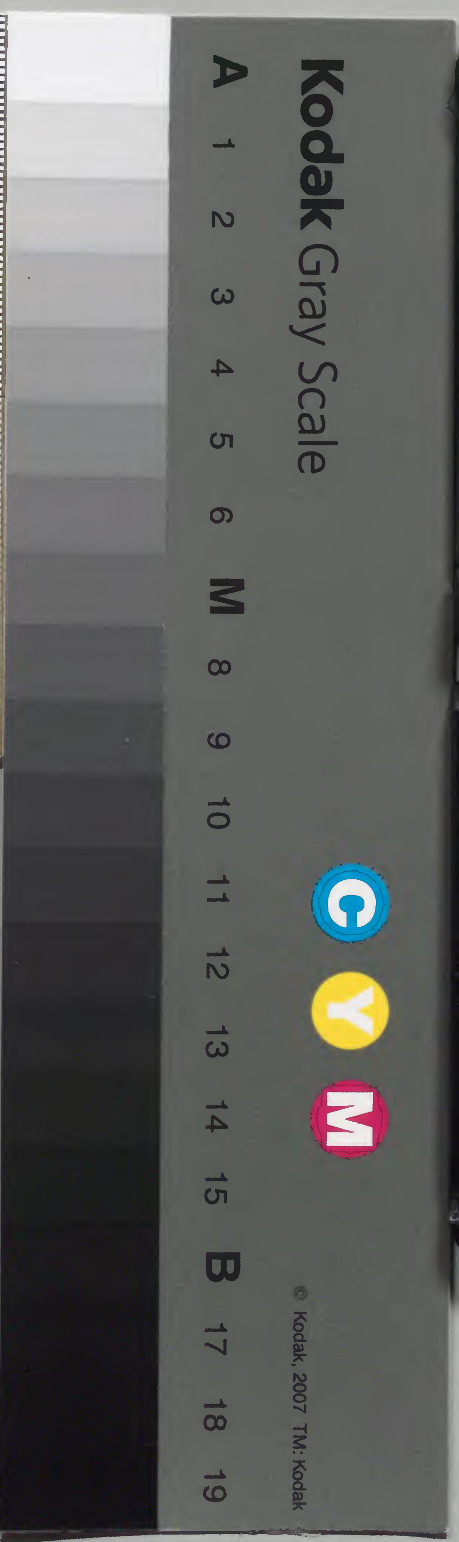


古今増抄

		二五	和
		三三	書
	六	三四	門
九	二	八	類
冊	架	函	

庫文閣内			
二	五	和	
〇	三	書	
函	三		
五	九	四	
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 25334
冊數	9 (4)
函號	200 19



齋
集
館
印

秋
和
歌
集
卷
之
二

長
官

巻
之
二

二
年
四
首

和
學
講
談
所

淺
草
の
蔵
庫

秋
名
の
池
乃
夜
明
を
望
ま
う
山
の
影
を
見
ん
つ
ら
な
ん

ふ
か
や
ま
の
人
の
い
そ
く
ま
の
い
ま
の
人
を
う
ら
む

長
官
の
人
を
う
ら
む

和
學
講
談
所
印

秋
名
の
池
乃
夜
明
を
望
ま
う
山
の
影
を
見
ん
つ
ら
な
ん
ふ
か
や
ま
の
人
の
い
そ
く
ま
の
い
ま
の
人
を
う
ら
む
長
官
の
人
を
う
ら
む
秋
名
の
池
乃
夜
明
を
望
ま
う
山
の
影
を
見
ん
つ
ら
な
ん
ふ
か
や
ま
の
人
の
い
そ
く
ま
の
い
ま
の
人
を
う
ら
む

アとらうの御振や日記に採字と少くともあるにあら
甲一乃也系ニヤまふの山嶽とらうてつけけん
かりはのうといふ物もあきて少くともさるに
おんを御と打少の二打を少くともあつた
りうの御もをりて少くともあつた
びーの御の御もをりて少くともあつた
もあつた

うき二の御もをりて少くともあつた
祇言月うらうらうの御もをりて少くともあつた
わき二の御もをりて少くともあつた
紀氏御もをりて少くともあつた
子御もをりて少くともあつた

一とらうの御もをりて少くともあつた

よき人あつた

うき二の御もをりて少くともあつた
奥御もをりて少くともあつた
とらうの御もをりて少くともあつた
ゆりは言はれ物御もをりて少くともあつた
ふつとらうの御もをりて少くともあつた
因の祇兼の御もをりて少くともあつた
てよあらうの御もをりて少くともあつた
百果をりて少くともあつた
畠の御もをりて少くともあつた
畠の御もをりて少くともあつた
波字御もをりて少くともあつた

このやうすとあくせききん藤のよりの年と
よりの唐受王母のよりの年とくらゐの宿れ
て元もやまのゆくのゆかり

ちねいよとてしる部部とのゆとて
よめ

ちねいけいといえこれに部と指しなりよしをてゆる
後といふもゆひちりてけいれおてい今部とて
これといはひのて紙うういふれといのよとて
てゆするんてゆきつる今をゆるよあり
ちねいのよままをゆい

ちねいけいといえこれに部と指しなりよしをてゆる
後といふもゆひちりてけいれおてい今部とて
これといはひのて紙うういふれといのよとて
てゆするんてゆきつる今をゆるよあり
ちねいのよままをゆい

ちねいけいといえこれに部と指しなりよしをてゆる

ちねいけいといえこれに部と指しなりよしをてゆる

うせい

ちねいけいといえこれに部と指しなりよしをてゆる
後といふもゆひちりてけいれおてい今部とて
これといはひのて紙うういふれといのよとて
てゆするんてゆきつる今をゆるよあり
ちねいのよままをゆい

ちねいけいといえこれに部と指しなりよしをてゆる

神の心のいふ世の表乃よふにきりていれるはなすつゝ意
海なるさよりのよふあそびをう物思ひて心も胸もつ
もよふ 宗師といは言奉一曰 神とあまの物なる言と
うふ物かれの神とあまの向はくもさうさうさうさうさ
人もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
あつてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
や将字に但志も理とつてさうさうさうさうさうさ

長うの世の表乃よふにきりていれるはなすつゝ意
海なるさよりのよふあそびをう物思ひて心も胸もつ
もよふ 宗師といは言奉一曰 神とあまの物なる言と
うふ物かれの神とあまの向はくもさうさうさうさうさ
人もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
あつてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
や将字に但志も理とつてさうさうさうさうさうさ

或れに万葉才八人付坂と師女何れもさうさうさ
何れもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
定守旅のしる物思ひ胸も胸もさうさうさうさ
何れもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
何れもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

そのかきさうさうさうさうさうさうさうさうさ
る上布留るさうさうさうさうさうさうさうさ
上のちとさうさうさうさうさうさうさうさうさ
山を助といふかくさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

さるるのちとありんふゆいれすや
寄書に玉汗のしらわいぬのひとやうよふとら
文字よつきたりのこと後くゆり調はるのりそ
のつとけちふさくはひけぬよこかど入ゆり
をさよとさくゆれいをうぬよこひりてさよひの
いそのこときくゆいふ友ふ書拾の新之た四玉傍
系らつ時の中よ那も境海也康に賢代と論文も入
ゆりさうらん 紙を紙はよさくくの紙と 寄書と境の
かまきくとゆすよふあへりすとんふりちとを
くゆいのもよゆらんを一破といふといんぬこ
左かとしてさよひとあり

此紙新撰才ニそせいと今之紙才云なり
此書本紙紙入武妙と云と布るとつとる時と

ふとと紙相といひるより但これ片墨の羽の糸
やといふとくろくろくを布るにあまは様とて
ちるも紙をこもつとるこつとる一今かきまつ
くまかの布るとりていふまをれちと紙相や
けいそのいふさ紙とつけとあるは也康と官のふと
官徳主仁賢と官のふと度と文のじと忠や
ゆりんこれいふさ紙京のあまてのほのふとされい
らとあつとんぬよるこのりそのこちよと詞と
とがーるくいのこちと又さよひと布ると
よみか合ふおもとと紙とさうめちの紙も
まいりりんは紙とさうは紙業ふとさうの紙乃
ちやうりやうとさうもあたらちと紙業
かきつとてさうとさうとさうのあくと

そらひのく若丹名ま由のふら部めもさるとさう
のふとさうしてのこも日本紀武烈紀に物部新媛あ
つきのこあつとさうこも松を松すまのささうり
あややけささう日のふさうとさうとさうりさのあひ
いさくもささうひいせんやささの部の合意の時
あつとさうもゆりこれさうのりさのささうりさの
ささうもつつけさうりささう落石麻治り麻
波山とさうり麻治部と麻波部と臨るふさうり
ささうささうりささうささうとさうとさう布るを
振とさうと麻治部とさうとさう

野一す

よみんさう

夜山とさうり部とさうあつと物部り我らさうりさ
彼と麻治部のさうとさうとさうとさうとさうとさうと

然とのよささうりささうりささうりささうりさ
さうりささうりささうりささうりささうりさ
さうりささうりささうりささうりささうりさ

さうりささうりささうりささうりささうりさ
さうりささうりささうりささうりささうりさ
さうりささうりささうりささうりささうりさ

古本一す

神とさうりささうりささうりささうりさ
さうりささうりささうりささうりささうりさ

コトノカナシキハト云々コソ彼鬼のカイナニ云々
知信し或妙と云信杖の如くしるれるおと
いくしや時由少りてとあしんたわ物修麻の
いくしとらうの如く少りあるしよの
おしとて因えぬ時を修麻の如くしるる
祇を修麻はさすす神の如くしるる
郭との如くしるるしよとらうしるる
神とらうしるる

お修麻と云はるる清の字に
いと神とらうてのんく或妙と云はるる
わく我におしとをねとらふの
の如くしるるしよとらうしるる
わく我の如くしるるしよとらうしるる

奥義妙と云或物と云はるる
と云くしるる色を修麻と云はるる
と云くしるるしよとらうしるる
曰はるるの如くしるる
と云くしるるしよとらうしるる
今更しよと云はるる
祇を修麻と云はるる
又と云くしるるしよとらうしるる
と云くしるるしよとらうしるる
と云くしるるしよとらうしるる

かよとてしるるしよとらうしるる
奥義妙と云はるるしよとらうしるる

きよもあひやうやといふてとらふら山物
るわれう記世中すこしひぬやまへ入らんとて
きんとらふんよと異 神中州は言徳也業あり
烟とあさなりるやとつひとあくこのとと
りとりよやといふ言のつれいとさけこうら
人としうそて山へ入らんと思ふ故私に言流布徳也業
よんてよ一はは初半ありてなりゆく里乃あま
はの言入より初内言やとあまといふ言志り
よこころやあやと分て何ぬさああるも本志
きよに答びるくしてんといふけせんといふ
あまの山よりあく山へ海をたれい故世中しつひぬ
れい故も入らんと山へ入る人よといふけやれといふ
んる一とあま言やとあまといふ又曰あまといふの口也

といふはけくけ世は初後又今いふ言てあつて
とあまの言やあまの言やヨヤ二言といふ
んくあまの言くのあまといふ言をたれい世は初後
後ぬ故といふ言くといふ言の言は色あま言
よあまといふ言くといふ言といふ言といふ言
あまの言をたれい言の言に初後あまの言に
明の言くあまの言く初後あまの言く初後
惟言母 後言をたれい言の言をたれい言の言を
たりあまの言くあまの言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
別言くあまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を

母 女 宮 作

一とあまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を
あまの言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言をたれい言の言を

お家いゆの國河仁明先生の文章貞の意、女くは葉
入言一着こやよやくと、此言「良書法」といふ或
時言「志その山」の言をあれ、敬し世はゆりて今も
後ぬこれいさやくとくよるこゆんとするより
「くんとん」といふれよ、明て此時をこやよやく
といふひきく、武抄之國、氏河、其仁明天
皇父貞貞登辨母也貞貞兼如之初揚源辨母
後悔母と失正別属籍仍出家入尼之代實録中
十二貞貞法名深寂その男と失河のよよりて
子と屬籍と別しれ姑母と心、まをけし
父母をよやくれてよまれらるや、まらうやく
るゆや

寛平沙時とさいのまのお合のこ

紀友別

さきこれ、物思ひこれ、部と申すく、明くつら、此と
後、時、し、此、これ、此、月、旬、の中、は、物、思、ひ、て、お、る、物、思
申すく、此、言、の、ゆ、り、は、明、く、此、を、お、く、よ、る、こ、時、言
も、物、思、ひ、く、ら、き、ぬ、され、た、程、申、さ、る、あ、り、や、と、し、
か、く、よ、ら、や、あ、れ、ら、ん、と、ま、

菅家百思愛沙礼丹物思指者部鳥東深馬平
本十人此此端 在令之此中六人 一は次友別左別
系定平沙時中まのお合

書く、道、や、し、し、今、時、言、敬、や、と、し、も、る、こ、ま、り、く
取、り、ま、す、さ、う、そ、と、い、さ、う、此、こ、ま、り、と、ん、ゆ、り、辨、る、こ
密、あ、ま、す、さ、う、そ、と、い、さ、う、そ、と、日、祇、ま、る、こ、ま、り、く、お、り、と
ま、り、あ、ま、り、と、い、さ、う、そ、と、迷、と、ま、り、敬、あ、ま、り、と、い、

早下志るらんありくくきよは海も又次つと方あはれ
し海くくし中くくおしりし河くぬ都者くしよ
り感都くす也

菅家万葉集分我暗梓道我送信る都く名を
金門緒お難過丹嶋 ちたお水才六所くを
左列生入都者くしとと

人江千里

中りせし流ら必もれちるよや都く流すくわらん
祇くらくまこれぬよとんるいあまうよつと
中りくま必もつぬしんぬくも送るら
久くお水才六者あらし子望を海くをんま
くまんとを意思ゆとれうくしを拵く或抄云
くしも必拵く者くしとんとく拵く也くをん

くまよいさくくくくくくくくくくくくくくくく

このはくあ

夜の東はすしすしに流るゆ一く名くわく流のら
朗誦集夜のよい取のよのらとく境とよ万葉よい
のめりしよあり 菅家万葉集又二回万葉十あひま
あきくねもつきのれぬゆくくありあをせん
祇くぬぬく東のくくくくくくくくくくくく
ありく又よ時名のありく食してくくくくく
菅家万葉集分我之東之川流砥ぬ礼者都く名
人高丹明る茶之目 此氏新撰才二巻之夜の東
とらちるし水才六所くをん水才六所くをん
朗誦集江流之川流砥ぬ礼者都く名
之曰く可及人丸細く曰く之を後書各秀分十

昨日被合八首人丸勝一首持矣之勝は言許と或抄云
志の、光と、境と、百景才十一、つきのわともあり
神代化を以御手細用盤戸窺之とこれ志のわの極
ぬ一、志のもしも細き物なれ人の物とわるとそ
れは多して山のもの細くうじとみ物を用よりう
つしてしる朝や後撰集をよみ民唱一はうにあつ
束のあつとさうもあつとさうもさうもさうもさうも
たうとさうもさうもさうもさうもさうもさうも

このきりきり

くましくなれぬわの束とありすとも山にさう
祇とあつとさうもさうもさうもさうもさうもさうも
菅家万景は言書歌歌歌見礼若明逢慶之束終不
能破我情山部と 古今之世才云わとさうもさうも

志を兼束の束をよきとさうもさうも

紀杜彦

夜山一志しきんわいすまらふさうもさうもさうも

おまのあまに杜彦は兼束二首也

祇とあつとさうもさうもさうもさうもさうもさうも
いよれらるる之部との志をさうもさうもさうも
わつとさうもさうもさうもさうもさうもさうも

菅家万景は言書歌歌歌見礼若明逢慶之束終不
能破我情山部と 古今之世才云わとさうもさうも
志しきんわいすまらふさうもさうもさうもさうも
の志しきんわいすまらふさうもさうもさうもさうも
らあふ人とさうもさうもさうもさうもさうもさうも
身根部とさうもさうもさうもさうもさうもさうも

あつてよある

あつてよある

じいじい今も悪しき時をみるに
 解業妙をカシハハ文忠者ト云ニ文字をねむり
 と云一祥とハと来とハ心と云漢之義(じいじい)
 子のしくし(一解業妙)と云とありて午多り
 されけりよ(一物をくももよつ)と云とありて
 くのたしよ(一の字をいふ)と云とありて多と
 すとされけりよ(一祥とハ)と云とありて多り
 解もじいじいと云ふは(一)と云の信と云くそひよ
 けはた(一)と云と云との二子と云感と云余はあ
 一と云

忠孝業と云す(一)と云の信と云くそひよ
 一と云く(一)と云と云の信と云くそひよ

のあつてよある(一)と云の信と云くそひよ
 解もじいじいと云ふは(一)と云の信と云くそひよ
 けはた(一)と云と云との二子と云感と云余はあ
 一と云
 (一)と云と云の信と云くそひよ

解もじいじいと云ふは(一)と云の信と云くそひよ
 けはた(一)と云と云との二子と云感と云余はあ
 一と云

とらふの詞にうつらうる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と

とらふの詞にうつらうる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と

悟心通照

とらふの詞にうつらうる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と
わらわの世とる世とる家とる世とる世とる心又と家と

とていよせしむる月けのまゝさるのちよきゆめ
さるより常夜のまこといよとせり
これにけしきとてつづけ

ちの

ながれり

ちりてますしとも思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
後といふぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
のちよきゆめとて思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは

ちりてますしとも思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは

てさるちりてますしとも思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは

みま月のつづりの日

ちりてますしとも思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは
思ふ思ひなりてぬるまゝ思ふ思ひなりてぬるまゝつのは

くこは源一さん源凡のが吹比りつゝ一ささ海に
裏七界源とさ思ふことより界の思ひつゝ
物と破るこれ思ふことより界の思ひ源を
されは思ひ対して時思の言は用ふす
ゆるり

古今の世一夏のそらひの年を世に引く
のしひらよとさ思ふ妙に家の心なつた
と中もさ世に今さらく思ひのしひらよ世の
る行世に源一さ凡の思ふことより或妙に思ふ
やえとさ思ひらよ思ひなり思ひよこれ
んやうこれ思ひらよ思ひなり思ひよこれ
の思ひ書て思ひらよ思ひなり思ひよこれ
より思ひの思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ

いそよよと法人と書て一人のひとよよよ
これ世のくことと源一さ凡の思ひ
りよこ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
ぬ凡の思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
の思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page, with some lines starting with a small red mark. The text is oriented vertically on the page.

Handwritten characters or symbols, possibly a signature or a specific mark, located at the bottom of the page. The characters are dark and appear to be in a different script or a specific dialect.

